

セイスポ

星槎スポーツ新聞

第41号★2019年12月20日(金)

星槎グループ セイスポ編集部発行
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2

関東高等学校 女子サッカー選手権大会

3位で全国大会へ



初戦のスターティングメンバー



初戦で先制点を入れて喜ぶ星槎イレブン



得点を挙げて喜ぶ星槎イレブン

第28回関東高等学校女子サッカー選手権大会が群馬県で開催された。昨年度の全国優勝校として追われる立場での戦いとなった。毎年この関東大会は8都県16チーム中、上位7位までが全国大会の切符を手に入れることができる。今年も関東予選を戦い抜いて全国大会の切符を手に入れた。

初戦の相手は山梨県第二代表の帝京第三高等学校である。初戦といふこともあり、星槎には硬さが見られ、思うように試合運びをすることができなかった。相手も前線から積極的にボールを奪いに来ていたこともあり、星槎のパスは思うように繋がらず、自分たちのやりたいサッカーがピッチで表現できなかった。しかし、相手の隙

を突いてカウンターで得点を奪い有利になったが、相手も反撃をしかけてきて追加点が奪えずにチャンスやピンチもない試合展開が終始続き試合が終了した。1-0で勝利したが課題がたくさん残る試合であった。

2回戦目は栃木県第一代表の宇都宮文星高等学校。初戦のような試合立ち上がりの硬さはなかったが、スロースタートで試合の入り方はよくなかった。相手は立ち上がりから勢いよく前線から攻めてきた。しかし、星槎の守備陣がしっかりとそれを防ぎ失点を許さなかった。相手の守備陣が手薄になりカウンターのチャンスで、得点を奪う

ことができた。得点を奪ったからは星槎ペースで試合運びができた。その後、3得点を追加し4-0で勝利した。これでベスト4入りを果たし、全国大会の出場権を獲得した。6年連続全国大会の出場を決めた。準決勝は1週間後の試合となるため課題を1週間のうちに修正する時間がある。

準決勝の相手は東京都第二代表の修徳高等学校。立ち上がりから相手の猛攻があり、慌ててしまいミスが多発し、早々に失点を許してしまった。その後、相手は徐々に自陣に引いて守備をしてきたので、星槎はボールを保持しながら相手に攻撃を仕掛けるが相手を崩す

ことができない。ピッチの中央は固く守備をされているのでサイドから攻撃を試みると、徐々に相手の陣地に入って試合を運ぶことができたがシュートをすることができない。後半もサイドを起点とした攻撃をした結果、相手の硬い守備の中央に隙が生まれ、そこを星槎のパスワークで突破し、綺麗に相手

を崩し得点を奪った。同点になってこのまま星槎ペースで試合を運びたかったが、相手も星槎のパスワークをカットしてカウンターを仕掛けてきた。そのカウンターをミスも重なり止めることができず、失点を許してしまい、1-3で敗戦、3位決定戦にまわった。

手は山梨県の第一代表の日本航空高等学校。全国大会に繋がる試合ができるかが問われる。相手は前線からプレスをかけてきて星槎のパスワークを封じようとする準備をしてきた。しかし、相手のディフェンスラインの隙を突き、相手の守備陣の頭上を越えたボールはFWの元へ行きそのまま相手GKと1対1となりそれを冷静に決めて先制点を奪った。相手もすぐに修正をして更に前線からプレスをかけ、星槎の攻撃の芽を摘んできた。その矢先、サイドからのクロスを合わせられ失点を許してしま

う。後半は前半に比べると攻める時間も多くなり相手陣地に侵入する時間が増えたが、シュートで終わることができない。

しかし、FWが相手を打開しサイドを突破して2点目を奪った。その後星槎ペースで相手を綺麗に崩して3得点目の勝ち越しゴールを決めた。しかし、相手も攻めてくると自陣での不要なミスにより失点を許し1点差まで詰め寄られた。その後は焦っていた星槎であったが、何とか守り切り3-2で勝利を収めた。課題や星槎としてできたことなど沢山の成長するための収穫があった。全国大会まで限られた時間の中で修正していきたい。

ご声援ありがとうございます。皆様のご声援があり6年連続で全国大会出場を掴むことができました。昨年は全国優勝しているのに、更に気を引き締め日々の練習に力を入れていきます。

今後ともご声援の程お願い申し上げます。

(星槎国際湘南女子サッカーコーチ 渡邊晃平)

11月3日から、神奈川県高等学校新人大会西支部予選がはじまった。東西南北の各支部で12チームが県大会出場を争うことができる。

星槎国際湘南は順調に勝ち上がり、県大会への出場権を手に入れた。

支部大会二回戦のカードは、創部間もない星槎国際湘南と、県立湘南高等学校との対戦となった。

第1クォーター 県立湘南はハーフコートマンツーマン、星槎国際湘南はオールコートマンツーマンでスタート。県立湘南は思いうようにボール運びができず、10-0になったところで県立湘南がたまたまタイムアウト。県立湘南はその後リズムを立て直したが、19-13の星槎国

際湘南リードで1Q終了。

第2クォーター 県立湘南と星槎国際湘南は一進一退の攻防が続く、32-26の星槎国際湘南リードで第2Q終了。

第3クォーター 星槎国際湘南はオールコートマンツーマン、県立湘南はハーフコートマンツーマンで試合が始まった。県立大磯はボール運びができず、星槎国際湘南の優位な試合運びとなり、24-6の星槎国際湘南リードで第1Q終了。

第2クォーター 県立大磯は星槎国際湘南の攻防に対応し、県立大磯#16、#4を中心に得点を重ねる。しかし、星槎国際湘南は#6長田琉愛のスリーポイントシュート、#5榎木莉子のジャンプシュートで得点を重ねる。38-18の星槎国際湘南リードで第2Q終了。

第3クォーター 星槎国際湘南のミスが目立ち始め、県立大磯の追い上げに遭う。県立大磯は、#4の1対1、#14のスリー



吉岡寧の一対一

女子バスケットボール 神奈川県新人大会 西支部予選

支部大会三回戦のカードは星槎国際湘南と県立大磯高等学校の対戦となった。

第1クォーター 星槎国際湘南はオールコートマンツーマン、県立大磯はハーフコートマンツーマンで試合が始まった。県立大磯はボール運びができず、星槎国際湘南の優位な試合運びとなり、24-6の星槎国際湘南リードで第1Q終了。

第2クォーター 県立大磯は星槎国際湘南の攻防に対応し、県立大磯#16、#4を中心に得点を重ねる。しかし、星槎国際湘南は#6長田琉愛のスリーポイントシュート、#5榎木莉子のジャンプシュートで得点を重ねる。38-18の星槎国際湘南リードで第2Q終了。

第3クォーター 星槎国際湘南のミスが目立ち始め、県立大磯の追い上げに遭う。県立大磯は、#4の1対1、#14のスリー



令和元年度ドイツ研修旅行報告

11月11日～19日、7泊9日の日程で生徒25名(サッカー専攻3年)引率2名で訪独した。研修旅行の目的は「スポーツを通して平和を学ぶ」であった。研修旅行事前準備の学習を行った。歴史の授業を受けた。少人数によるグループ学習を行った。グループは9つあり、ドイツ連邦共和国について、歴史や食事、気候・文化、主な産業についてなどドイツの地を踏み入れる前に歴史や文化を学びドイツのバックグラウンドを知る。研修先、交流する相手を知る意味でもとても大事な学びとなった。

ドイツに入国してすぐに文化に触れることができた。道路の大きさや有料トイレなど日本にはないサイズ感や文化があった。最も大きな影響を受けたのが積極的なコミュニケーションだった。挨拶をする際の目線、目力、言葉の力強さなど日本では味わえない迫力があつた。

挨拶の文化は日本に持ち帰って実践したほうが良いと心を動かされる生徒が多数おり、帰国してからも意識的に挨拶を行っている生徒もいる。

目的である「スポーツを通して平和を学ぶ」は入国した2日目から体験することができた。学校内ではなく総合型スポーツクラブとしてサッカークラブがあり、自前のスタジアムやクラブハウスなど立派な施設に驚かされた。それよりもクラブに関わる人たちに驚かされた。クラブには人種も生まれも違う人々が所属しており、選手や働き手の人、応援してくれるサポーターの方々が手を取り合っている姿が目についた。小さなコミュニケーションの中で共生社会を実現していると刺激を受けた。また、交流試合をした際には日本の挨拶を尊重して受け入れてくれたり、記念撮影をする際

には自ら混ざり合ってコミュニケーションをとって仲間として認めてくれた。試合終了後には監督やコーチ、選手や保護者のみんなが私達を認めて、リスペクトの意を表して握手を求めにきてくれた。星槎の3つの約束である「人を認める」「人を排除しない」「仲間を作る」を自然と体現しているドイツに感銘を受けた。

今回サッカー活動だけを行ったわけではない。平和教育活動を積極的にやっているドイツ国際平和村を訪問した。紛争地域で怪我をし、自国で高度医療を受けられない子どもたちなどに無償で治療を行っている。子どもたちは様々な地域からくる。もちろん人種も生まれも違う。話す言葉も違う。その中で共に生活し、ドイツ語を覚えてコミュニケーションを取っている。講習をしてくださったスタッフの方からこんな言葉を聞いた。「帰国する前に子どもたちにこんなお願いをしている。帰国した際に平和村で様々な人と共同生活をした。私たちも共生社会が可能なんだと伝えてほしい。怪我を治してもらった。ドイツ語を話せるようになった。ただでなく、共生社会について学んだ。平和村を案内してもらっているときに子どもたちとサッカーをする交流があった。ボール一つで心を通わせることができる仲間になった。改めてスポーツは素晴らしいと実感できた瞬間だった。

研修旅行中の日常、サッカー、平和活動中すべての場面で目的を学び、感じられる場面があった。研修旅行を支援くださった宮澤保夫会長をはじめ職員の方々、保護者の方々、旅行会社の方々には大変感謝し、彼らの今後に活かしていきたい。

(星槎国際湘南 教諭 金子拓也)

未来に向けてスポーツを超え

第5回となるSEISA Africa Asia Bridge (SAAB) 2019が11月9日(土)、10日(日)の二日間にわたり横浜市旭区若葉台の星槎高等学校で開催され、2日間で32カ国以上から、過去最多の総勢7,738名の来場があった。

「知(ち)けい(けい)」知る、繋がること、仲間になることをテーマに、アフリカとアジアに笑顔の「橋」をかける星槎グループ最大のイベントだ。SAABではスポーツを通じた交流も盛んに行われる。屋外のアーチェリー体験ブースでは星槎国際湘南のフータンからの留学生のソナム選手、ニダップ選手が約500名の来場者にアーチェリーの手ほどきをした。またこの10月から星槎大学に入学し陸上競技部で活動しているエリトリアのデジエン選手、フータンのペンジョ選手は、

SEISA Africa Asia Bridge 2019開催!



未来へ向けてタッチダウン!

星槎国際湘南体操部の柏木淑里選手とともに、パラリンピアンを招いたトークショー「夢トーク2020」に出演。元チエアスキーヤーで、アルペンスキー競技においてパラリンピック5大会に出場し、金2つを含む合計10個のメダルを獲得した大日向邦子さん、水泳とトライアスロンでパラリンピック3大会に出場し、来年のパラリンピックでも活躍が期待される木村潤平選手をゲストに、スポーツを通して成長や、今後の目標について語り合った。

また、JICA横浜にご協力をいただき、卓球の指導で青年海外協力隊としてエチオピアに赴任

されていた佐野太一さんの講演も行われ、難民キャンプでの卓球教室など、貴重な体験をお話いただいた。

そしてフィナーレでは、1,000人以上の来場者が集まり、未来に向けた夢や願いを書いたラグビーボールをパスでつなぎ、野外ステージに登壇した宮澤保夫会長がタッチダウン。来年の東京オリンピック・パラリンピック、そしてその先の未来へ向けて、スポーツを通じて、またスポーツを越えて、多くの学びと交流が生まれたSAAB。

来々年2020年は11月14日(土)、15日(日)の両日で開催予定だ。

黎明

チーム星槎は11月2日 神奈川県県立大会、11月3日 国土館競技会での1600mリレーを終了した。シーズンが終了した。2019シーズンはチーム星槎にとってどのようなものだったか。一言で表すなら「黎明」である。

4月、星槎国際湘南は新入生が増えたことにより、「チーム」として始動を開始した。人数が増えたことによりすべての競技を1つにまとめ活動できるようにした。その目的は陸上界に「新しい風を吹かす」ためだ。

春先は坂田生成が県大会入賞を果たしたものの、400mR、1600mRの両種目で県大会出場すらできず、チームとしては振るわなかった。

その状況の中、秋のシーズンへ向けて二度の夏合宿を行った。霧ヶ峰、菅平高原と高地の涼しい場所、練習を共にし、ハードな練習を仲間と協力して乗り越えたのだ。この合宿がきっかけとなりチームとしての絆が少しずつであるが生まれてきた。

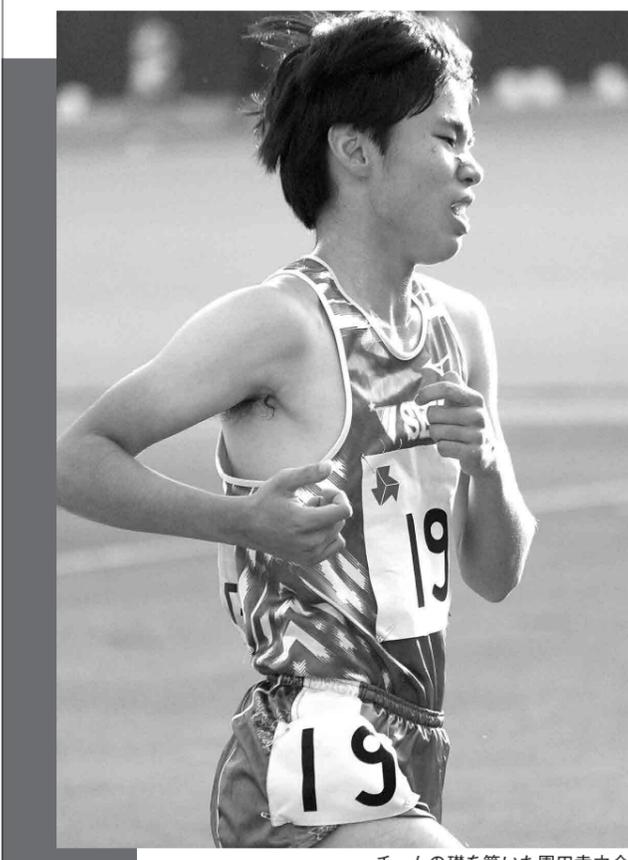
合宿直後に行われた神奈川県高校新人西地区予選では、多くの選手が自己記録を更新し、400mR、1600mRの両リレーを含め10種目で県大会出場を決めた。チームとして形になってきた。

そして神奈川県高校新人で、「星槎」というチームの存在を満天下に示した。走幅跳で坂田生成が7m07の自己記録をたたき出し優勝、佐藤口バートが円盤投で3位入賞、清水大地が400mで8位入賞、メルハウイが800mで4位入賞、力石隆太郎が5000mで決勝進出し、なんと短距離、長距離、跳躍、投てき全ての種目で結果を出したのだ。さらに坂田は関東高校新人でも優勝をした。

星槎国際湘南は生まれただけのチームである。そのベビーチームが2019年の神奈川県陸上界で昇天の勢いそのままに輝きを放った。この輝きは日本陸上界に新たな風を吹かすための黎明である。

2020年シーズン、全国で輝きを放つためチーム星槎は冬季練習に挑んでいく。

(星槎国際湘南陸上競技 コーチ 佐々木雄大)



チームの礎を築いた園田幸之介

SEISA 陸上アドバイザー 末續慎吾 主宰 第3回 走ることを知る教室2019



50m真剣勝負(右から2人目が末續選手)

星槎陸上アドバイザーの末續慎吾選手主宰による第3回「走ることを知る教室」が、11月20日(水)、星槎湘南大磯キャンパスで開かれた。星槎国際湘南1年生、星槎国際川口のスポーツ専攻の生徒を対象として約90名が参加した。実技では走り方の基礎や姿勢、腕振り、身体づくりの体幹トレーニングなどが行われた。

実際に末續選手が披露したスタートダッシュが披露され、最後は生徒と末續選手との50m真剣勝負をし、生徒たちは大喜びであった。

座学では、スポーツをするにはどういった意識が必要か、結果と過程の話など今までの経験を話して伝えてもらい、末續選手が生徒に問いかけ、会話しながら多くを学んだ。

生徒は考えさせられることが多く、末續選手の考えに興味津々であり、生徒の目は輝いていた。末續選手は授業の中で、「積極的になることはなぜ大切か、それは知るといふきつかけになる。受け身ではなく、何でも自分から動き、知ること、会話することが大切である。」

また、信頼が人生では大切であり、結果で得られる信頼、互いにルールを守ることで生まれる信頼など信頼があるから引退後も活動が認められる。今後は、今日走ること知れたことを活かして頑張ってもらいたい。」と強いメッセージを頂いた。

(星槎国際湘南門馬健太)

末續慎吾

2003年の世界陸上パリ大会で2000m決勝に進出し、20秒38で3位となる。2008年の北京オリンピック男子4×100mリレー決勝では第2走者として出場。オリンピックにおける日本男子トラック種目で史上最高位の3位に入り、銅メダルを獲得。その後、金メダルを獲得していたジャマイカチームが禁止薬物の陽性反応を示したため、2017年に銀メダルに繰り上げとなっている。2016年4月1日付で星槎大学の特任准教授に就任。

スポーツメンタルを強化する方法

オピニオン 星槎国際八王子副センター長 坂本英之

前回のオピニオンでは、緊張していてもベストパフォーマンスを発揮するための方法を紹介した。今回はスポーツメンタルを強化する方法を紹介していく。

一般的に「メンタルが強い」と言われるアスリートには、「あきらめない」「折れない心」というような様々な要素が備わっている。では、メンタルを強くするにはどうすればいいのか。方法はたった一つ、「達成感を積み重ねていくこと」だ。

この達成感というのは、今までできなかったことができるようになったり、簡単にはできないような負荷がかかることをやり切ったときに得られる。この達成感を繰り返していくことで、自信とあきらめない心が育っていく。

達成感を味わうためには、2つのポイントがある。「ある程度のストレスもしくは負荷がかかる環境」「自分にはできるという自己肯定感」の2つである。

アスリートは、日常的に負荷のかかる練習やプレッシャーのかかる試合を繰り返して、いつも負荷のかかる環境にいることで、達成感を持つことができる。また、これま

での競技人生の中で「自分にはできる」「勝てる」「やれる」と思える経験をしているはずだ。この肯定感があれば、負荷のある環境にも自信を持ってチャレンジをし、その環境を打破して、達成感を味わうことができるのである。

ストレスのかかる環境と自分にはできるという自己肯定感の良い例として、引退したイチロー選手が挙げられる。メジャーリーグで毎年年間2000本安打という目標は、もちろん普通の選手では大変なことである。しかし、イチロー選手の実力、それにもなう出場試合数などを考えると、コツコツ積み重ねていくうちに達成でき

そうなる目標と言えるだろう。結果として何年もその目標を達成し続けたことは大偉業である。何より打率ではなく、安打数を目標にしたことが絶妙で、積み重ねていくことで達成できるということが目標設定として大切なことである。

どんなに調子が悪い試合でも、1本ヒットが出る事で目標へと近づく。何試合かヒットが出なくても、また、次の試合に向けて頑張る気持ちへと切り替わる。

もし打率で3割を目標にしていたらどうだろうか。好調時は大きく目標をクリアするかもしれないが、不調時になると打率はグンと下がってしまうだろう。長いシーズ

私たちが陸上競技を始めたのは中学1年の時。当時から体の大きかった私は、顧問の先生の勧めもあり砲丸投げに取り組んだ。未熟ながらも遠くへ投げられれば楽しさが増し、試合で1つでも上の順位になれば嬉しさも増し、気付けば砲丸投げの虜になっていた。決して陸上部が強い中学校ではなかったが、3年生の春の大会では神奈川県で6位になったことは強く記憶に残っている。また、今から考えると技術云々よりも楽しさを主で指導していた当時の顧問の先生には感謝している。

そして、高校でも陸上を続けたい、もっと強くなりたいと考えるようになり、進学したのは陸上の強い県立高等学校であった。一日おきの朝練習では6時前に家を出て通っていたのは懐かしい思い出である。また、高

毎日ハンマーが投げられる贅沢な練習環境と全国大会に出場経験のある先輩方との練習のおかげで、私の記録も徐々に伸び、3年生の夏に念願の全国大会へ出場する事ができた。結果は予選落ちであったが、全国大会出場という経験は後の私の人生において大きな自信に繋がっている。その自信もあり、大学でもハンマー投げを続けたいと思う思

いと、将来は体育の教員になりたいという思いを両方叶えられる大学を選び進学した。大学では全国大会への出場は叶わなかったが4年時には投擲プロックのブロック長を務めたことも良い経験になっている。また、今振り返っても年間320、330日はハンマーを投げたいくらいハンマー投げにのめり込んだ。その時の苦楽をともにしていた先輩や仲間たちとは今でも交流があり、一生付き合っていく良き友でもある。

今、私の目標は「生涯現役」を体現することである。これから先の人生でハンマー投げを止める気持ちは一切ない。そんな思いを抱きながらこれからもハンマーを投げ続けていこうと思う。

今、私の目標は「生涯現役」を体現することである。これから先の人生でハンマー投げを止める気持ちは一切ない。そんな思いを抱きながらこれからもハンマーを投げ続けていこうと思う。

今、私の目標は「生涯現役」を体現することである。これから先の人生でハンマー投げを止める気持ちは一切ない。そんな思いを抱きながらこれからもハンマーを投げ続けていこうと思う。

ニュース速報

フェンシングW杯、女子フルーレに星槎国際川口の上野優佳が出場

FIE(国際フェンシング連盟)ワールドカップ、女子フルーレ(エジプト・カイロ)、男子エペ(スイス・ベルン)、女子サーブル(フランス・オルレアン)が現地時間11月22日に開幕した。FIE公式サイトにはエントリーリストが掲載され、日本からは34選手が出場。女子フルーレに上野優佳が出場し、個人で13位だった。

フィギュアスケート全日本ジュニア選手権で鍵山優真が優勝

星槎国際横浜の鍵山優真が11月17日までの全日本ジュニア選手権で初優勝した。昨年、6位と大健闘した全日本選手権の出場権も獲得した。年末の大会では五輪2連覇の羽生結弦選手らと同じ舞台で技を競うこととなる。

星槎国際湘南硬式野球部の卒業生、本田仁海投手がオリックスと契約更改

オリックス本田仁海投手(20)の背番号が、今季の「96」から入団時の「46」に変更。昨年9月に右肘疲労骨折部の固定術を受け、実戦登板までに時間がかかることからオフに球団と育成契約を結んだが、今年支配下選手に復帰。来季から再び46番を背負うことになった。来季の活躍に向けてトレーニングに励んでいる。

星槎 教師 列伝

生涯スポーツとの出会い 星槎高等学校 教諭 大森進吾



私が陸上競技を始めたのは中学1年の時。当時から体の大きかった私は、顧問の先生の勧めもあり砲丸投げに取り組んだ。未熟ながらも遠くへ投げられれば楽しさが増し、試合で1つでも上の順位になれば嬉しさも増し、気付けば砲丸投げの虜になっていた。決して陸上部が強い中学校ではなかったが、3年生の春の大会では神奈川県で6位になったことは強く記憶に残っている。また、今から考えると技術云々よりも楽しさを主で指導していた当時の顧問の先生には感謝している。

そして、高校でも陸上を続けたい、もっと強くなりたいと考えるようになり、進学したのは陸上の強い県立高等学校であった。一日おきの朝練習では6時前に家を出て通っていたのは懐かしい思い出である。また、高

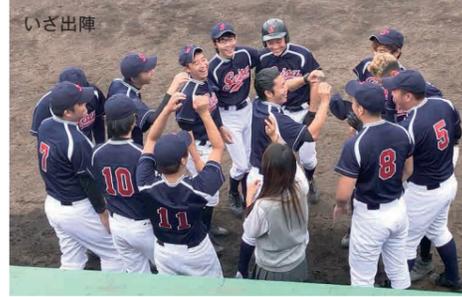
毎日ハンマーが投げられる贅沢な練習環境と全国大会に出場経験のある先輩方との練習のおかげで、私の記録も徐々に伸び、3年生の夏に念願の全国大会へ出場する事ができた。結果は予選落ちであったが、全国大会出場という経験は後の私の人生において大きな自信に繋がっている。その自信もあり、大学でもハンマー投げを続けたいと思う思

セイスポ

許したが、強打者が揃う桃谷高等学校の猛攻を2点で抑えた。2点ビハインドで、7回裏ピッチャー

11月3日、住之江野球場にて第69回大阪府高等学校定時制通信制総合体育大会軟式野球の部、決勝戦が行われた。対戦相手は夏季の大会決勝戦で惜敗した大阪府立桃谷高等学校だ。前回の無念を晴らすべく、気合十分で挑む姿勢が見られた。

試合前の内陣で、古川貴大監督を中心に気合をいれる様子も恒例になり、主将の長岡太陽を軸に野球経験者、未経験者関係なく、互いに声を掛け合い、助け合う姿が印象的なチームである。



星槎国際大阪軟式野球部 大阪府大会 準優勝!!

長岡太陽が三者凡退で抑え、いい流れのまま8回の攻撃を迎えた。

2番 藤中瑞が打撃し、3番 中筋勝宏がタイムリーヒットで1点追加。4番 山本喜伸が出塁し、5番 小林康大のヒット、相手のエラーで満塁。7番 中筋正宏がタイムリーヒットで1点追加し、続くバッターはこの日ノーヒットの8番 本澤大昂。相手の甘い球を見逃さずライト前ヒットを放ち、スタンドの応援団がこの日一番の歓声を上げた。

8回裏、不運なエラーが重なり、同点で9回を迎えた。四球と相手のエラーで2アウトながら、3塁にランナーを置き6番 西勇輝を迎えた。互いに緊張が走る中、2ベースヒットを放ち、2点追加、11で攻撃が終わり、2点リードのまま、9回裏を迎えた。

相手は全国定通大会のベスト4。簡単に勝たせてくれる相手ではない。ヒットを重ねられ、同点とされ、レフトからの返球と同時に3塁ランナーがホームに突っ込んできた。審判がセーフの判定を下し、サヨナラ負けとなり試合は幕を閉じた。表彰式を終えた選手たちは、悔しい気持ちを隠し切れなかったが、応援に来ていた保護者からは、攻めの姿勢を忘れず、健闘した選手たちを称える声が上がっていた。

最後に諦めず、野球を楽しむことを忘れずに挑んだ部員とマネージャーたちに、温かい拍手を送りたい。

VOICE

古川貴大監督

このチームは昨年の4月には部員が高野研と川島大知の2名しかいない「キャッチボール部」として始動しました。人数が集まらず大会にも出られなかったチームだったが転入学してきた長岡太陽、西勇輝を中心に部員を集め、自分たちで練習の日を決め、積極的に動いた結果、決勝戦まで連れてきてくれました。先輩後輩の垣根を超え、声を掛け合い、チーム内の士気を高めてくれたのも選手たちです。準優勝

したことは嬉しくもありましたが、このチームで優勝したかった悔しい気持ちもあります。今はただ頑張った選手たちに感謝で一杯です。

最後に諦めず、野球を楽しむことを忘れずに挑んだ部員とマネージャーたちに、温かい拍手を送りたい。

主将 長岡太陽

今年の目標は、チーム一丸となることと、古川監督を神宮に連れていくことでした。昨年の途中から本格的に部員が集まり始め、今のチームができました。粗削りなところもありますが、一勝一勝重ねてこまごまこれまでに感謝いたします。



タックル練習



基礎練習

令和元年11月1日に開設した星槎旭川キャンパスでは、地域に根ざし、盛り上げる学び作りとして、全国大会出場を目標とする「レスリング部」の設立を準備している。レスリングを通じ旭川を盛り上げ、ともに感動し笑顔が連鎖する、共生社会の実現を目指している。

旭川のレスリングの歴史は長く、昭和29年「国民体育大会レスリング競技」が旭川市で開催されたことから始まる。

この大会直前に「旭川レスリング協会」が発足。創立当初は競技の運営、指導者の養成、選手の育成、練習場の確保など多くの課題を抱えながら船出をしたと聞く。

その後は、旭川出身者が東京・メキシコ・ミュンヘンのオリンピック3大会連続で金メダルを獲得する快挙を成し遂げる。

レスリング大国の復活 旭川から宇宙一へ!

旭川は長く、昭和29年「国民体育大会レスリング競技」が旭川市で開催されたことから始まる。

この大会直前に「旭川レスリング協会」が発足。創立当初は競技の運営、指導者の養成、選手の育成、練習場の確保など多くの課題を抱えながら船出をしたと聞く。

その後は、旭川出身者が東京・メキシコ・ミュンヘンのオリンピック3大会連続で金メダルを獲得する快挙を成し遂げる。

旭川は長く、昭和29年「国民体育大会レスリング競技」が旭川市で開催されたことから始まる。

この大会直前に「旭川レスリング協会」が発足。創立当初は競技の運営、指導者の養成、選手の育成、練習場の確保など多くの課題を抱えながら船出をしたと聞く。

その後は、旭川出身者が東京・メキシコ・ミュンヘンのオリンピック3大会連続で金メダルを獲得する快挙を成し遂げる。

旭川は長く、昭和29年「国民体育大会レスリング競技」が旭川市で開催されたことから始まる。

この大会直前に「旭川レスリング協会」が発足。創立当初は競技の運営、指導者の養成、選手の育成、練習場の確保など多くの課題を抱えながら船出をしたと聞く。

その後は、旭川出身者が東京・メキシコ・ミュンヘンのオリンピック3大会連続で金メダルを獲得する快挙を成し遂げる。

人工芝のパイオニア。

株式会社 アストロ
www.astrocop.co.jp

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町一丁目2番2号
TEL:03-3279-3219

よみがたつく世界へ

KIRIN

ひとつ上の、休息を。

午後の紅茶

キリンビバレッジ株式会社 GOGO-TEA.jp のんだあとほりサイクル

IRIS CHITOSE